

- ■ ■ ■ 葉活酢ワンダーランド
 - ■ □ ■ お酢（ビネガー）で農業を盛り上げたい
 - ■ ■ ■ 発行者： キューピー醸造 梅本和夫
- 毎月15日前後発行（創刊 2021/4/16）

<http://www.kewpie-jyozo.co.jp>



..... by kewpie-jyozo

葉活酢をご愛顧いただき有難うございます。

突然ですが、これから、定期的に皆さまに葉活酢に関する話題をお伝えしたいと思っています。

お酢（ビネガー）の良さを農業関係の皆様と共有出来れば幸いです。

<トピックス> 北の大地にいらっしやる土壌学の大家

今回は帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センターの農学博士でいらっしやる谷昌幸教授のお話であります。

谷先生は「カルシウムは細胞の維持・強化に寄与し、成長に大きな影響を及ぼす」ことを指摘した米国のジワン・バルタ教授の発表に共感され、長きに亘りバレイショの作付けが多い十勝・上川管内をはじめ道内各地の圃場の土壌分析を実施され、実態把握に努められています。

特にカルシウムに着目され、十勝・上川両管内の土壌中のカルシウム含量が低いこととリン酸含量が高いことを明らかにされました。

さらにチツソ・リン・カリ（N・P・K）3要素のすべてが過剰傾向で交換性陽イオンのカルシウム・マグネシウム・カリウム間の塩基バランスが良くないことも明らかにされました。

過剰施肥は無駄であるにとどまらず、収量・品質低下、環境負荷をもたらすことを指摘され、圃場毎に適正な要素バランスになるよう施肥することを提唱されています。JAさま・肥料メーカーさま・農機具メーカーさまなど関係者と連携して圃場毎の最適施肥バランスが実現できるよう取り組みを進められています。最近では近年続いている高温・小雨対策として堆肥や炭を使った土壌改良の重要性を再認識されています。

お酢（酢酸）についてお聞きしたところ、葉面散布剤としては面白い素材とのコメントを頂きました。谷教授の取り組みが成果を上げて農家さんの収量安定・品質向上につながり、美味しいジャガイモがいただけることを期待しています。下の画像は先生のお姿であります。



＜熊本県の菊栽培農家さんのお話＞（藤島菊ばり農園、代表藤島幹大さん）

菊ばり農園（熊本県上天草市）は65aのハウスで10a当たり年2.8作電照菊を栽培されています。菊は日本の代表的な花で国花でもあります。菊は花の中で生産量・生産額はともに全国1位で、主に葬祭や法事などに年間を通して使用されています。近年ではアレンジメント用として、可愛らしいスプレーマムなど色や形も多く結婚式にも多く利用されています。菊は短日植物なので日長を制御して周年栽培されています。藤島さんは環境にも配慮され、有機質肥料をメインに黒糖蜜・にがり・海藻粉末などを配合した葉面散布などで施肥され品質向上に努められています。一番の菊栽培の気の配りどころは環境制御（電照・温度など）でありホルモン剤を使用するが、理想の綺麗な形に仕上げる事が難しいとおっしゃられていました。お盆の供養が出来るのも、花卉生産者さまの日々のご努力の賜物であります。下の画像は収穫を2週間後に控えた菊栽培ハウスです。



「葉活酢ワンダーランド」の配信は第5号で始めたばかりの試みになりますので、皆さまの応援を頂ければ有難く存じます。また皆さま方からのコメントも寄せて頂ければ大変光栄に存じます。

次回は9月17日の配信を予定しています。

お友達を紹介ください！！

ご紹介頂いた方へ、弊社特製のビネガードリンクを進呈させていただきます。

メール配信を希望されない場合はお知らせください。

最後までお読み頂き、有難うございました。